

会 報

平成24年9月15日

てんりゅう



つげがわ
▲愛知県新城市の新東名高速道路黄柳川橋工事

▲夏休み親子現場見学会参加者

特集 「地域とともに生きる建設業」

表紙の写真は「夏休み親子現場見学会」の現場と参加された皆さんです。今年は愛知県で進められている新東名高速道路の建設現場を見学しました。天竜建設業協会では、このほかにも「会報てんりゅう」による地域情報の発信や「道路環境の美化・愛護」などの公益的活動を長年に亘って実施してきました。今回はこうした「地域とともに生きる建設業」の取り組みについてご紹介します。

会報てんりゅう 第104号

(一社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053) 926-1562
編集・発行 広報委員会 題字 長谷川智彦 FAX (053) 925-6468
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

地域とともに 生きる建設業

はじめに

天竜建設業協会（以下、本協会と表す。）は、天竜区内の建設業を中心に、正会員及び賛助会員合わせて44社からなる団体です。

建設業の社会的な使命は、技術の改善向上や公共工事等の適切な施工により、安全で住み良い地域づくりを進めるとともに、雇用の場の確保や災害時における迅速な対応などを通じて、地域社会の安定と振興・発展に貢献することです。

こうした中から、今回は地域に根ざした産業団体として、本協会が県下の各地区協会とも歩調を合わせ、日頃取り組んでいる公益的事業や地域貢献活動についてご紹介します。

「会報てんりゅう」の発行

「会報てんりゅう」は、昭和59年8月の創刊以来、すでに28年の時を刻み、今回第104号を発刊しました。

会員企業からなる広報委員会のメンバーを中心に、「手づくり」を基本に、企画・編集から原稿執筆・依頼、配布まで行っています。

現在は1月、5月、9月の年3回、本協会や会員企業の活動をはじめ、美しい自然環境や伝統芸能・イベント、史跡など天竜区の四季折々の風物



▲地域の伝統芸能や文化施設などを紹介

を表紙や特集、コラムで紹介しています。また、地域を支える人にもスポットを当てた紙面づくりに努めています。

今後とも、「建設業と地域のかかわり」を柱に、タイムリーな話題や魅力を取り上げ、楽しく読んでいただけるよう企画・編集をしてまいります。広くご意見・ご提言をお寄せいただきたいと思います。

「夏休み親子現場見学会」

道路や港湾、公園などの社会資本は国土発展の基盤となるものです。こうしたことから本協会では毎年、建設業への理解や公共事業と人や地域とのかわりを学ぶ機会として、将来を担う子供たちとその保護者を対象とした「夏休み親子現場見学会」を開催しています。

本年は、去る8月2日、区内の13組27人が参加し、中日本高速道路（株）のご協力により同社の豊川工事事務所が



▲新東名設楽原P.A.予定地見学の様子

進めている新東名高速道路のつげがわ黄柳川橋、鳳来トンネル及び設楽原パーキングエリア予定地の3箇所を見学しました。

現場では、豊川工事事務所の福島叔人工務課長から工法や工期、完成イメージなどの説明を受け、橋梁やトンネルのダイナミックな工事とパーキングエリアの広大な土地の造成状況を目の当たりにし、建設技術への関心や完成が楽しみといった声が多く聞かれました。

午後は、竜ヶ岩洞や新東名



▲県道周辺の除草作業の様子

浜松サービスエリアに立ち寄り、思い出に残る夏休みの日となっていたいただいたものと思っています。

来年もまた見学施設やコースなどを検討し、新たな企画で開催する予定です。人数的な制約はありますが、なるべく多くの方のご応募をお待ちしています。

―道路愛護思想の普及と

環境美化活動―

道路は、通勤・通学や買い物などの日常生活を支えるとともに産業や観光、物流など

様々な社会経済活動の基盤となっています。

本協会ではこうした道路整備にかかわる団体として、毎年8月の「道路ふれあい月間」に合わせ、道路をきれいに安全に利用してもらう道路愛護思想の普及のため、天竜区内の会員・賛助会員が総出で区

▶24年度道路愛護活動の実施状況

地区名	月 日	国・県道路線	参加社・人数
天竜・龍山	8/21(火)	県道引佐六郎沢線・横川磐田線沿道ほか	14社・27人
春 野	8/21(火)	県道水窪森線牧野～静修沿道ほか	8社・12人
佐久間	8/21(火)	国道473号浦川地内沿道	5社・11人
水 窪	7/27(金)	国道152号線半島・長尾地内沿道	7社・11人
合 計			34社・61人

内の国・県道沿いの草刈り作業を実施しています。

本年は、表のとおり34社から延べ61人が参加し、真夏の炎天下の下、丸1日をかけて沿道の除草を行いました。これらの箇所では生い茂った夏草がきれいに刈り取られ、すっきりとした沿道風景が戻りました。

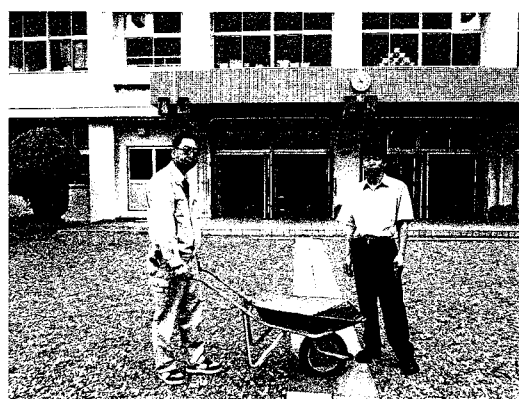
建設業の有する人力と資機材を生かした身近な地域貢献活動として、協会員の総意のもと来年以降も継続的に実施してまいります。

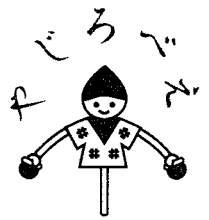
天竜区内の小・中学校に一輪車を寄贈

本協会では、ストックしてあった一輪車を地域で有効利用してもらおうと、本年4月、要望のあった天竜区内の小学校8校及び中学校4校に合計15台を寄贈しました。学校での様々な作業の軽減に少しでもお役に立てればと思っています。

終わりに

本協会の公益・地域貢献事業は、自らが出来る範囲のことを地道に行うことが基本的な考えです。地域に生きる建設業として、これらの活動は長年にわたって実施してきました。今後とも「継続」をモットーに会員が一人となつて頑張つてまいりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。





『日本の団体競技に学ぶ ーロンドンオリンピックー』A・S

2012年の夏はロンドンオリンピックで盛り上がりました。皆さん夜更かしをして、翌朝眠たい目をこすりながらお仕事を頑張っていたのではないのでしょうか？

日本が史上最多のメダルを獲得した今回のオリンピックの特徴として、『団体競技の躍進』がありました。女子サッカーのなでしこJAPANはもちろんですが、卓球女子や競泳団体など、個人では惜しくもメダルを逃した選手が、団体では素晴らしい活躍をし、初のメダルを獲得するというニュースが日本中を沸かせました。

なぜ今年は団体が強かったのでしょうか？正しいかどうかは分かりませんが、私は団体競技にかける熱意や意気込みが、個人競技のそれより勝った結果なのではないかと考えています。柔道など、メダルを期待される選手達がなかなか結果を出せない中、なでしこJAPANは見事銀メダルを獲得しました。メダルまで長い道のりでしたが、その要因は、「技能」で

はなく「結束力」であったことは多くの方が共感されると思います。

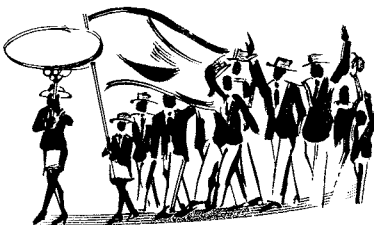
『力を合わせて、皆が努力を続ければ、大きな目標も達成できる』

今回のオリンピックを真面目に考察すると、この一見当たり前に思えるメッセージに行きつきます。さらに真面目にこれを私達の現実社会に落とし込めば、『仕事には大きな目標を持つて挑め！』だったり、『面白くなくても決してあきらめるな』といったメッセージになると思います。

オリンピックから何を感じるか？

それは人によつて様々ですが、

私は「日本のこれからの戦い方」を見せてもらえたと思っています。



かんとくさん



静岡県浜松土木事務所
天竜支局工事課
大杉 敦基

私は林業職員として県に採用されてから森林土木工事に携わってきましたが、昨年度より浜松土木事務所天竜支局に勤務しています。配属された当初、森林土木工事では経験できない様々な現場に向いて勉強しようと張り切っていたのですが、昨年度は台風15号をはじめとする多数の異常気象により管内でも多数の災害が発生し、災害対応に翻弄されているうちに1年が過ぎてしまいました。今年こそは出来る限り現場に足を運び知識・技術の向上に努めたいと思います。昨年度の災害では、初動対応や早期復旧のために地元建設業の皆様の実務的な役割の大きさを強く感じました。応急対応や測量設計業務に迅速に取り組んでいただいた協力業者の皆様の尽力に対し、改めてお礼申し上げます。

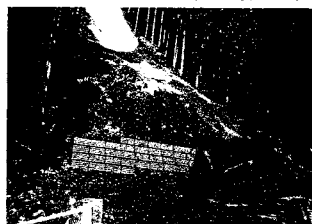


「メガソーラーへの 取り組み」

7月にスタートした再生可能エネルギーの固定価格買取制度を受け、全国で太陽光発電の設置が加速している。パネル価格などが下落して設置費用が抑えられる一方、電力会社に売電する電力の値段が高いため、買取価格が固定されているうちに、できるだけ早く事業化しようと、さまざまな分野の事業者が次々と参入を表明している。こうした動きを踏まえ、行政による誘致活動も活発化してきた。静岡県では、「全国トップ（2011年実績）」の日照時間を誇る県内のメガソーラー誘致を円滑に進めようと、ワンストップの窓口を設置するとともに、「ふじのくにメガソーラー情報バンク」を開設。民間も含めた県内のメガソーラー候補地の募集と、それら候補地をインターネット上で公表している。

建設ギャラリー

工事名称	平成23年度県単独治山(補助)事業 水窪町奥領家(西浦池島)地区治山工事
工期	平成23年11月23日～平成24年2月29日
発注者	浜松市長 鈴木康友
施工業者	鎌倉組
工事箇所	浜松市天竜区水窪町奥領家地内
工事概要	吹付工 A=616.4m ³ カゴ土留工 A=28.0m ³ 山腹工 A=0.1ha



本工事は、数年前の台風により、上部岩盤の崩落により被災した箇所であり、地域住民の数年来の要望箇所にあたり、倒木、転石、堆積土等斜面整形にかなりてこずりましたが無事工事が竣工できました。年度末工事でありましたので予算の都合上斜面緑化が出来なかったのが残念です。



私の安全パトロール日誌

リスクアセスメントとKY活動の相違点(手順)	
リスクアセスメント	KY活動
危険性・有害性の特定	第1ラウンド どんな危険が潜んでいるか?
リスクの見積	第2ラウンド これが危険のポイントだ
優先度の設定 低減措置の検討	第3ラウンド あなたならどうする?
低減措置の実施	第4ラウンド 私たちはこうする

同じ点(危険・有害要因の特定=何処に危険が潜んでいるか)

リスクアセスメントとKY活動はどちらも『先取りの安全』であり、『リスクを見つけ出して、検討し、実施する』という流れになっています。リスクアセスメントの『危険・有害性の特定』とKY活動の第1ラウンド『どんな危険が潜んでいるか?』は双方ともにリスクの把握の仕方が同じなため、普段KY活動を取り入れてきた現場ではKY活動の第1ラウンドを取り込むことで比較的容易にリスクアセスメントを取り入れることが出来ます。

異なる点(主観的-客観的)

	リスクアセスメント	KY活動
同じ点	危険性・有害性の特定 ・～なので(危険性・有害) ・～して(作業員) ・～がなくて、～して(危険状態) ・～になる	どんな危険が潜んでいるか? ・～なので ・～して ・～になる
違う点	リスクの見積・優先度の設定 ・全ての作業について ・多くの資料を基に客観的に ・具体的に見積 ・優先度を設定する	これが危険ポイントだ ・第1ラウンドで出された複数の危険要因から ・その日の作業で特に重大なものを ・主観的に選定する
	リスクの低減措置 ・リスクの優先度に応じて、多くの資料を基に ・具体的 ・客観的に対策を検討し、実施する	あなたならどうする? 私たちはこうする ・経験に基づき ・主観的に(思いつきで) ・実施事項を絞り込む

リスクアセスメントの『見積・優先度の設定・低減措置』が収集した多くの資料を基に、『日数』をかけて、『客観的』に決定されるのに対し、KY活動では『その日』に『経験値』で『主観的』に決定する点が大きく異なります。

安全指導員 (株) 森下組 柏崎圭亮

日頃、協会の皆様には労働安全活動に格別の高配を頂き厚く感謝いたします。私が、防災安全指導員担当となり五年が過ぎましたが、残念な事に近年重大災害が天竜地区で発生してしまいました。この先重大災害を未然に防止するためにも安全パトロールの強化とともに各現場での安全意識の向上が求められることと思われます。災害防止対策の一つにリスクアセスメントがありますが、今回はリスクアセスメントとKY活動の違いについて触れたいと思います。リスクアセスメントの意味は『リスク』怪我や損失が起る可能性を評価する』という事です。EJ加盟国では、リスクアセスメント手法の法律化が進み、現在では『リスクアセスメント』では企業の安全管理が成り立たない。』といわれるほど、一般化しています。日本では平成十八年四月より、事業者がリスク指針に基づいて調査を実施し、その結果によって必要な措置をとることが努力義務化されました。

My Family



(株)天竜アキヤマ 遠見石 知

私の家族は、全員で7人です。81歳の母をはじめに妻、それから4人の子供がいます。上から長男26歳、次男24歳、長女22歳で、すでにこの3人は家を離れて各々が浜松の中区で仕事をしています。仕事忙しいのか遊びが楽しいのか、なかなか家には帰ってきません。たまに帰ってきて寝てばかりで寂しいものです。さらにわけあって年の離れた私にとっては孫のような三男の侑平3歳9カ月がいます。毎日 朝早くから慌ただしく、そして元気に天竜の保育園に妻と一緒に出かけしていきます。

とてもかわいのですがいたずら盛り。家にいる時は朝から一日中プール遊びでお昼ご飯も水着のまま外で食べるくらいです。おもちゃといえば建設機械が大好きでパワーショベルからブルドーザー、ダンプトラックにロードローラー、クレーン車と小さいですが建設会社の社長さんのようです。大きくなったらコンボの運転手さんになって「とうと（私）」と一緒に現場をやる！とうれしいことを言ってくれます。こんな子が将来に夢のもてる明るい職場になるといいですね。



平成二十三年四月吉日
八十一年の時を経て森下組の柏崎吉蔵様より届けられました。
明治九年初代長谷川榮三郎が長谷川組を現浜北区竜南にて創設
昭和三年豊田郡二俣村（現天竜区二俣町）に拠点を移して榮治郎妻いわが二代目として事業を継承
隣家の佐々木佐一染物店にて作る
組の頭に世話役としてこの印絆纏を渡す
背中の丸に 榮 のすき間と衿の丸に 土木 と書かれたすき間が赤いのが特徴である
年頭の挨拶にきて来宅した様子を大正生まれの方より聞く
時が経ち昭和十九年四月長谷川組から天龍土建工業株式会社に組織化され現在に至る

遠州中央農協 天竜支店

山本 晃弘さん



1ヶ月の本店での研修を経て、私はこの春、遠州中央農協天竜支店に配属され、窓口係として働いています。支店に配属されたばかりの頃は、戸惑

いと不安の毎日で、お客様への対応も、とても緊張していました。また、最初は自分が社会人になったのだという実感をなかなか持てなかったのですが、日々の業務を通じて金融機関の役割の重さを感じ、自分が遠州中央農協の一員であるという自覚と責任が少しずつ生まれてきました。まだまだ覚えることばかりではありますが、いつも笑顔で大切に、明るい対応を心が



けて、先輩方やお客様の力をお借りして一步一步成長していきたいと思っています。そして1日でも早く天竜支店の戦力となり、利用者の方々から信頼される職員となり、地域に貢献していきたいです。

お宝発見

シリーズ第16回 印絆纏

（天龍土建工業（株））
代表取締役 長谷川 智彦